

安村氏(福島大医) 日医医学賞

県内49年ぶり2人目 災害医学研究を評価

日本医師会(日医)の本年度医学賞受賞者に、福島医大放射線医学県民健康管理センターの安村誠司センター長(68)が選ばれた。東日本大震災と東京電力福島第1原発後の県民の健康を支えるために続けてきた災害医学研究の功績が評価された。日医によると、本県からの受賞は1977年度の梶浦睦雄氏(福島医大教授)以来、49年ぶり2人目。

被災地の健康支え続け

医学賞は、日医が医学上重要な業績を上げた会員に贈る賞。基礎医学、社会医学、臨床医学の内科系、外科系の各部門から毎年1人ずつ、計4人が選ばれる。

本年度は17件の推薦があり、石塚尋朗本県医師会長

日本医師会医学賞を受賞した安村センター長



医学県民健康管理センター設立時から副センター長として「県民健康調査」の計画作りで中心的な役割を担った。23年からセンター長を務める。多くの研究者との共同研究を通じ、避難に伴う生活環境の変化が及ぼす健康影響や、健康管理の長期継続の重要性を示してきた。

安村氏は「被災地域住民の健康管理を支えるため、多くの仲間と共に積み重ねてきた共同研究の成果が評価されたと受け止めている。長年にわたり県民健康調査に協力いただいている県民や関係者にも深く感謝している。今後も『健康長寿日本一』を目指し、評価に値する仕事をしていかなければと思っている」と話した。

贈賞式は11月1日、東京都の日本医師会館で行われる。